

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	文化芸術課
課等の長	齊藤雅子
環境マネジメントシステム管理推進員	森本琢実
課職員数	21人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	9人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	藤沢市アトスペース

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A～D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれしていない。 D…把握していない。</p>	B	<p>事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握しており、十分な認識があると判断。また、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問については、おおよその使用割合などを確認することができた。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断。アトスペースでは展示作品のへの影響が出ない範囲で空調の適切な温度管理と部屋ごとに不要な時間はこまめに電源を切ることを実践している。特に冬場は、温度管理が不要な展示の場合は来場者が上着を着たまま作品を鑑賞する想定で温度設定を行っている。そして、照明器具はLED化されており、展示作品の性質に応じた照度調整を行っている。事務室では昼休み時の照明消灯、OA機器のオフなどを励行している。また、ビルの構造上、アトスペース側の外壁が全面窓仕様となっており、直射日光を遮るために一部暗幕の設置を実践している。そのほか、ごみの減量化も実践している。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由の把握はおおむねなされていると判断。令和4年度は前年度と比べてほぼ同じ展示回数、ほぼ同じ閉館日数であったにもかかわらず前年度から31%の増加となった。これは作品の展示形態が多様(映像機器など一定程度電力を使用する作品が増える傾向や、展示スペースにビル開放部を利用する作品などにより冷暖房効果が減じられてしまう)であることが起因しており、具体的には、冬場に階段スペースを利用した作品展示を開催したことにより暖房効果が弱まり、電力使用量が増えたこと、映像機器を使用した作品展示があったことが原因だと分析されていた。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	B	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の2030年度に2013年度比▲56%の排出量を認識して具体的な数値を設定している。令和5年度は前年度比で約▲22.0%の目標を立てている。具体的な削減方法として、適切な換気、空調のこまめな調整を行う、昼休憩中は事務室の電気を消灯する、展示室の直射を避けるために暗幕を設置する、冬場の展示では来館者が上着を着たまま鑑賞する想定で暖房温度を低く設定するなどを実践している。ただし、これらの削減努力だけでは目標達成を見込むことは大変厳しいと推察される。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、実績データについて文化芸術課と情報共有し、目立った増加がある場合はその原因を精査して節電につながる工夫を職員間で共有しているとのこと。環境eラーニングは全員受講済みとのこと。今年度については事務室へのサーキュレーターへの導入や、冬場に作品への影響がすくない範囲で暖房の使用頻度を下げるなどの工夫が共有、実践されている。</p>

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	文化芸術課
課等の長	齊藤雅子
環境マネジメントシステム管理推進員	森本琢実
課職員数	21人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	9人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	藤沢市アートスペース

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)	監査員メモ	
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていないか。	電気	△	令和4年度は令和3年度と比べて電気31%の増加となり、2013年度比で56%削減目標から照らして(文化芸術課全体で、令和4年度は2013年度比で17.2%の削減)今後一層の削減努力が望まれる。しかしながら、コロナ対策としての換気によって冷暖房使用が増加している中でも、短期的にエネルギー消費削減目標を設定して、照明や冷暖房の適切な管理や取組が着実に実行できている。そして、令和5年度の目標は前年度比で約▲22.0%を設定しており、引き続き、上記の削減行動を実践している。 ただし、これらの削減努力だけでは目標達成を見込むことは大変厳しいと推察される。中長期的な視点に立って、再エネ電力への契約切替え可能性の検討(テナント貸主との協議)など、カーボンニュートラル(炭素中立)なエネルギー利用の検討が望まれる。また、階段部での展示を実施する場合などは冷暖房効果が減じられないように実施時期の変更や、エアカーテンや短冊型ビニールカーテンの導入検討が望まれる。
		都市ガス	-	
		ガソリン	-	
		軽油	-	
		その他	-	

※判定基準

○…達成できている

△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる

×…達成できていない

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	スポーツ推進課
課等の長	高田 美彦
環境マネジメントシステム管理推進員	三部 梨加子
課職員数	10 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	26 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	秩父宮記念体育館

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握しており、十分な認識があると判断。また、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断。指定管理者により、照明は使用目的に応じて照度を調整したり、部屋ごとに不要な時間はこまめに電源を切ることを実践している。空調は適切な温度管理と部屋ごとに不要な時間はこまめに電源を切ることを実践している。また、夏季には日の当たる窓にゴーヤのグリーンカーテンを設置し緑化推進を実践している。公用車については、近距離移動には徒歩と自転車利用を優先し、使用時は無駄な荷物の積載をなくし、エコドライブを実践している。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由を把握し、的確に分析できていると判断。令和4年度は前年度までのコロナ対策を緩和して、短縮していた開館時間を通常に戻したため、利用者増となった。そのため、排出量の前提となる各エネルギー使用量が増加した。具体的には、利用者増に伴う施設照明(電気)の稼働時間増、空調(主に都市ガス)の稼働時間増、マラソン行事等への出張など公用車(ガソリン)の稼働時間増などが理由として分析されていた。他方、非常用発電機(軽油)の定期点検時運転は前年度より減少したことが分析されていた。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の2030年度に2013年度比▲56%の排出量を認識して具体的な数値を設定している。令和5年度は前年度に比べて更に利用者増が見込まれるが、前年度比で約▲6.5%の目標を立てている。具体的な削減方法として、更なる照明のこまめな消灯や空調の適正な温度管理を、各部屋の利用予約時間に基づいて事務所と現場で職員同士が連絡を取りながら対応、実践しているとのこと。そして公用車については近距離での使用を控えることを更に徹底すること、非常用電源の点検時には不要な機械運転を行わないことを実践している。また、夏季にはグリーンカーテンの導入により数値削減に貢献するためだけでなく、利用者との環境マインド向上やコミュニケーションの増進にも注力して取り組んでいる。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、指定管理者においては毎月のエネルギー使用量実績を集計して、会議の際に職員間に共有しているとのこと。担当課においては指定管理者との会議において報告と目標値の確認をしているとのこと。指定管理者職員間の削減に向けた情報共有から、グリーンカーテンがアイデアとして提案、その後導入されたとのこと。</p>

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	スポーツ推進課
課等の長	高田 美彦
環境マネジメントシステム管理推進員	三部 梨加子
課職員数	10 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	26 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	秩父宮記念体育館

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていないか。	電気	△	令和4年度は令和3年度と比べて電気6.4%、都市ガス19.3%、ガソリン33.8%の増加、軽油は15.6%の減少となり、全体で9.3%の増加となった。2013年度比で56%削減目標から照らして(スポーツ推進課全体で、令和4年度は2013年度比で7.6%の削減)今後一層の削減努力が望まれる。しかしながら、コロナ対策緩和後に利用者が増加している中でも、短期的にエネルギー消費削減目標を設定して、照明や冷暖房の適切な管理、自動車利用の削減やエコドライブの実践、非常用発電機の適切な運転管理など取組が着実に実行できている。そして、令和5年度の目標は前年度比で約▲6.5%を設定しており、引き続き、上記の削減行動を実践している。 ただし、これらの削減努力だけでは利用者増のなかで目標達成を見込むことは大変厳しいと推察される。中長期的な視点に立って、再エネ電力やバイオガスへの契約切替えなど、カーボンニュートラル(炭素中立)なエネルギー利用の検討が望まれる。また、今後の大規模施設更新時には温室効果ガス削減計画についても検討が望まれる。
		都市ガス	△	
		ガソリン	△	
		軽油	○	
		その他	-	

※判定基準

- …達成できている
- △…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる
- ×…達成できていない

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	福祉総務課
課等の長	古郡 亘幸
環境マネジメントシステム管理推進員	近藤 将文
課職員数	29 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	3 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	藤沢聖苑

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握しており、十分な認識があると判断。また、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答。施設内で電気の使用は一定量あるが、藤沢市地球温暖化対策実行計画に基づき、再生可能エネルギー由来の電力を購入しているため、温室効果ガスの排出量はゼロとカウントされる状況にある。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断。電力使用は排出がゼロカウントとなるが、照明は部屋ごとに不要な時間はこまめに電源を切ることを実践して省エネの努力を継続している。電気と都市ガス併用している空調は適切な温度管理と各部屋の利用予約時間に基づいて、また、会葬者の人数に応じてこまめに調整している。火葬炉の点火、運転時間については、予約時間に基づき調整を行っている。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由を把握し、的確に分析できていると判断。令和4年度は前年度に比べて市内死亡者が増加しているため、火葬件数が増加している。そのため、排出量の前提となる都市ガス使用量が増加した。具体的には、空調(主に都市ガス)の稼働時間増、都市ガスによる火葬炉の稼働時間が前年度より増加したことが分析されていた。また排煙防除フィルター装置の運転に多大な電力を必要とし、火葬数が増えれば電力も増加する傾向にあるが、再エネ由来の電力を使っているため、排出量ゼロ扱いとなることも分析されていた。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の2030年度に2013年度比▲56%の排出量を認識して具体的な数値を設定している。令和5年度は前年度に比べて更に火葬数増(1割以上)が見込まれ排出量増が予測されるなか、前年度比で0%の目標を立てている。具体的な削減方法として、更なる照明のこまめな消灯や空調の適正な温度管理を、各部屋の利用予約時間に基づいて調整しているとのこと。また、照明については順次LED電球に更新していくことで電力使用量の削減に取り組んでいく予定であるとのこと、都市ガスヒートポンプ式空調については更新時期を迎えているため、順次電気式に更新を予定しており、再エネ電力使用により排出量削減を見込んでいるとのこと。また、苑内周囲の緑化整備にも力を入れているとのこと。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、現場で業務を行う市職員や専門業者等と定例会を実施しており、その場で、電気と都市ガスの使用量実績について情報共有等が実践されている。環境eラーニングは全職員に受講するように周知しているとのこと。</p>

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	福祉総務課
課等の長	古郡 亘幸
環境マネジメントシステム管理推進員	近藤 将文
課職員数	29 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	3 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	藤沢聖苑

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていないか。	電気	○	令和4年度は令和3年度と比べて電力は0%、都市ガス10.3%、全体でも10.3%の増加となった。2013年度比で56%削減目標から照らして(福祉総務課全体で、令和4年度は2013年度比で29.2%の削減)今後一層の削減努力が望まれる。しかしながら、市内死亡者数の増加による火葬数が増加中でも、短期的にエネルギー消費削減目標を設定して、照明や冷暖房の適切な管理、火葬炉の適切な運用など取り組みが着実に実行できている。そして、令和5年度の目標は火葬数の増加が見込まれる中でも、前年度比で0%を設定しており、引き続き、上記の削減行動を実践している。 ただし、これらの削減努力だけでは今後も火葬数が増加していくといった予測のなかで目標達成を見込むことは大変厳しいと推察される。中長期的な視点に立って、再エネ電力の使用と同様に、バイオガスへの契約切替えなど、カーボンニュートラル(炭素中立)なエネルギー利用の検討が望まれる。また、今後の大規模施設更新時には温室効果ガス削減計画についても検討が望まれる。
		都市ガス	△	
		ガソリン	-	
		軽油	-	
		その他	-	

※判定基準

- …達成できている
- △…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる
- ×…達成できていない

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	観光課
課等の長	木村 嘉文
環境マネジメントシステム管理推進員	坂野 晃
課職員数	10 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	23 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	江の島サムエル・コッキング苑

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	B	<p>事前提出のヒアリングシート監査項目(1)から、環境負荷機器類等の使用状況をおおそ把握しており、おおむね認識があると判断。また、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問には適切に回答。ヒアリング時にエネルギー種別計上部分で認識の間違いがあり、「都市ガス」から「その他(LPG)」への変更が発生した。また、新施設の稼働に伴い、電力の使用目的割合に変更が生じた。しかしながら、環境負荷を弛まらず精査、把握している状況を確認できた。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断。指定管理者により、施設内で利用する空調の調整や、使用していない部屋の照明をこまめに消すことを実践している。ガラスハウスについて夏季は遮光布(タープ)をかけて直射日光の量を調整することで室温調整を行っている。そして、イベント開催時にはSDGsの取組を取り入れており、具体的には、灯籠イベントではLED照明を導入している。キャンドルイベントについてはろうそくを再利用し、ごみの減量化も実践している。湘南の宝石イベントではボタニカルライト(植物発電発光材)を利用している。また、夏のイベントでは夕涼みに市民が参加することで自宅の電力使用を抑える効果をもたらしている。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	B	<p>昨年度の排出量、増減率、理由の把握はおおむねなされていると判断。ヒアリング時にエネルギー種別計上に間違いがあり、「都市ガス」から「その他(LPG)」への変更が発生したため総排出量に変動が発生した。令和4年度は大規模なリニューアル工事があったため、排出量の前提となる各エネルギー使用量が増加した。具体的には、建築作業に係る電力使用量(セメントミキサー等)と、LPG使用量(溶接等)が増加したと分析された。これらの使用量は事業運営分と建築作業分とが分別できないため、事業運営分の正確な分析は困難だった。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	B	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の2030年度に2013年度比▲56%の排出量を認識して具体的な数値を設定している。令和5年度は前年度に比べて更に利用者増が見込まれるが、前年度比で約▲81.7%の目標を立てている。ちなみに工事のなかった令和3年度比で+1.5%の目標となる。具体的な削減方法として、リニューアル工事分を除くと、電力では令和3年度よりも削減された目標であり、空調の適切な温度設定、照明のこまめな消灯等に取り組んでいる。また、新施設ではLED照明を積極的に導入している。LPGについては、リニューアル工事分を除いても、新施設飲食店の運営により給湯、調理器具による使用量増が見込まれており、工事のあった令和4年度よりも増加した目標となっている。しかし、担当課から指定管理者への使用量削減要請を受けて効率的な運営を実践している。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、指定管理者においては毎月のエネルギー使用量実績を集計して、月一回担当課と情報共有を図っている。そして、2か月に1回は会議で職員へ業務報告を行っているとのこと。また、職員による発案で夏季にガラスハウスで遮光布(タープ)の設置などが実践されている。</p>

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	観光課
課等の長	木村 嘉文
環境マネジメントシステム管理推進員	坂野 晃
課職員数	10 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	23 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	江の島サムエル・コッキング苑

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができているか。	電気	△	令和4年度は令和3年度と比べて電気455.7%、LPG438.1%の増加となり、全体で455.4%の増加となった。これは大規模リニューアル工事の建築作業分に起因しており、ヒアリングから、事業運営部分の使用量は前年度並みと推察される。今後、使用量が大きく変動する一時的要因が発生する場合は、電力メーターやガスメーターの分離等を講じて、事業運営部分のみを定常的に把握できるような工夫が必要となる。令和5年度についてはエネルギー消費削減目標を設定して、照明や冷暖房の適切な管理や、遮光布(タープ)の設置など具体的な取組が着実に実行できている。 ただし、これらの削減努力だけでは利用者増のなかで排出量削減を見込むことは大変厳しいと推察される。中長期的な視点に立って、再エネ電力への契約切替えなど、カーボンニュートラル(炭素中立)なエネルギー利用の検討が望まれる。また、今後の大規模リニューアル実施時には、再生可能エネルギーに代替が困難なLPGの使用を最小限にとどめるためにも機器(給湯、調理機器など)選定を工夫する必要がある。
		都市ガス	—	
		ガソリン	—	
		軽油	—	
		その他(LPG)	△	

※判定基準

○…達成できている

△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる

×…達成できていない

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	環境総務課
課等の長	古澤 泰斗
環境マネジメントシステム管理推進員	木村 千波
課職員数	20人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	2人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	公衆便所、公用車

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握しており、十分な認識があると判断。また、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断。課対象の温室効果ガスの排出は公衆便所の照明に係る電気と、公用車のガソリン使用である。公用車についてはガソリン車1台を他部署へ移管したことが削減要因とのこと。また、監査対象ではないが「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の所掌部局として、全庁的な空調設定、照明設定変更など電気使用量削減に努めている。さらに、執務スペースでの昼休みの照明消灯、PC電源OFFなどの取組を実践している。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由を把握し、的確に分析できていると判断。令和4年度は前年度と比べて、電気で2.3%の削減、ガソリンで65.0%の削減をした。電力については前年度との利用時間数の違いによる変化であること、ガソリンについては、ガソリン公用車1台の他部署移管とともに、EV公用車の率先利用、エコドライブの実施などが要因であることが的確に分析されている。また、全庁的な観点から部局別削減目標の策定、分析、情報共有をしている。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の2030年度に2013年度比▲56%の排出量を認識して具体的な数値を設定している。課として令和4年度時点で2013年度比▲95%の排出量削減を実現していることから、令和5年度については現状維持に努める状況にある。そして、削減努力は継続しており、具体的な削減方法として、公用車についてはエコドライブの実践やEV車の率先利用を行っている。また、公衆便所の電気使用については再エネ電力への契約切替えができないかについて検討すること。そして、公用車の更新時期にあわせてガソリン車をEV車へ積極的に転換していくことが検討されているとのこと。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。課内周知としては、部署内での情報共有のほか、節電対策方針に沿って昼休み中の消灯やPC電源OFFなどを課内で共有、実践している。また、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の所掌部局として、部局別削減目標と達成状況について部局間で情報共有を行っているとのこと。特に令和4年度から、率先実行計画の目標が「エネルギー年間消費1%削減」から「2030年度に2013年度比▲56%の排出量削減」へ変更されたことの説明、周知を行っているとのこと。</p>

令和5年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	環境総務課
課等の長	古澤 泰斗
環境マネジメントシステム管理推進員	木村 千波
課職員数	20 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	2 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	公衆便所、公用車

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)	監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができているか。	電気	○
		都市ガス	-
		ガソリン	○
		軽油	-
		その他	-
			令和4年度は令和3年度と比べて電気2.3%、ガソリン65.0%の減少となった。2013年度比で2030年56%削減目標から照らして(環境総務課全体で、令和4年度は2013年度比で94.8%の削減)削減目標は大幅に達成されており、今後は、現状の維持が望まれる。電気については公衆便所といった性質上、夜間の点灯が想定されており照明使用時間の削減は考えにくい。LED化や人感センサーの併用などの更なる推進が望まれる。また、中長期的な視点に立って、再エネ電力への契約切替えなど、カーボンニュートラル(炭素中立)なエネルギー利用の検討が望まれる。ガソリンについては公用車でのエコドライブの実践やEV車の率先利用などの普段からの削減努力とともに、中長期的には、ガソリン車からEV車への車両更新により更なる排出量削減を見込むことが望まれる。あわせて、本課のように、すでに2030年56%削減を大幅に達成している部署がこれからも更なる削減インセンティブを維持するために、例えば、余剰削減分については削減が簡単ではない他部署と融通、取引できるような仕組みの検討が望まれる。

※判定基準

- …達成できている
- △…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる
- ×…達成できていない